

問　宇治市が誕生した当時、地域のほとんどが農地だったが、現在は19万人の人口を抱える都市に成長し農業適地は一部しか残っていない。しかし、茶、米をはじめ農業は本市の重要な基幹産業である。市長の見解は。

農 本市の農業に対する 市長の見解は

—答弁—本市の特性を活かした施策に取り組む

答 本市の農業は小規模 経営や高齢化、後継者 不足などの構造的な問題を抱え、都市化の進行により、農家数や農地面積が年々減少している。農地は農産物の生産地という役割だけでなく、水源の涵養や環境の保全、良好な景観の形成等の多面的な機能も兼ね備えている。これまで、生産性や収益性の高い野菜や花などの栽培、宇治茶の名声と伝統を守り育てるため、宇治茶製法の特色である手摘み覆い栽培による優良高品質茶づくりの促進など、生産力の向上と農業経営の安定を目指した取り組みを進めてきたしかし、国の農業政策見直しのなか、本市の農業をどうまく環境は非常に厳しい。引き続き農業の持続的発展を図るために本市の特性に応じた農業施策に取り組んでいく。

答

自殺の原因は健康問題、経済・生活問題、家庭問題のほか人生観・価値観や地域・職場の変化など様々なかな要因が複雑に関係しているといわれており、自殺防止対策の推進に当たっては多方面からの検討や総合的な対策が知、活用を図る。

わが国の年間自殺者は毎年3万人を超える深刻な事態になつており、國や自治体の対策が急がれる。教育や福祉、警察、消防など関係機関と連携をとった総合的な対策に取り組むべきであるが市の方針は。

必要である。国では今後設置予定の（仮称）自殺予防総合センターを活用し、国民に対する正しい知識の普及・啓発強化を図り、自殺予防対策に関する情報の提供を行う。本市では関連する相談窓口として女性のための相談、成人健診相談、子育て相談、乳幼児相談、青少年心の電話など市民の様々な悩みに対応している。今後、国や府の動向とともに、現状の諸施策の周知、活用を図る。

問

自殺防止対策

本市の
自殺防止対策は
—答弁— 関係機関と連携し、
諸施策の周知、活用を図る

経済状況の活性化を目指し 楨島地域の産業基盤整備を

答 日産車体跡地の全用地が完売したことにより、今後は第2ステージとして企業誘致活動も新たな施設用地をタイムリーに提供ができるよう、有効な土地活用の観点から面的な整備の推進や新たな活性化支援策の検討が必要である。横島地域は本市最大の工業集積地であり、企業立地助成の実績から横島地域への転入、地域内の企業立地の傾向が多く見られ、本年度から横島地区の整備に向け関係各課が調整を行っており、意見を参考に早期に当面の問題解消に向け対応する。

問

地球温暖化は将来の人類の生存基盤を擾るがす深刻な問題であり、人類共通の緊急の課題である。昨年2月に発効した京都議定書の目標達成のため、実効性のある地域推進計画の策定に向けての本市の取り組み状況は。

計画の策定に当たっては国や府の方針を踏まえ、本市の自然的・社会的条件を考慮し、他市町村との均衡も考慮した上で法の趣旨に沿った対応をしていきたい。

まず、府から間もなく提供される予定の「府内市町村に

環 境

――答弁――実効性のある計画策定に向け銳意取り組む

おける地球温暖化対策地域減計画策定マニュアル」には、づき府の指導のもと、市内温室効果ガス排出量の算定を行う。次に、排出量の算定から将来予測、対策分野の抽出削減量の推計、削減目標の設定、計画の推進方策等の作業定を行ふ予定である。

これら作業過程には課題多く、策定完了までには難も予想されるが、府下の他町村に遅れることなく、実効性のある推進計画の策定に向け銳意取り組む。

には宇治市グラウンドゴルフ協会が設立され、年齢を問わず手軽に親しめるグラウンドゴルフに人気が集まり、それぞの地域で活動されている。現在、市内の爱好者は2千人を超え、今後確実な増加が見込まれるなか、その活動の基盤となる芝生のグラウンドゴルフ場設置の必要性は強く認識している。しかし、新たな用地の確保は困難な面もあり、用地選定に当たっては笠取地域も候補地の一つとして検討していくべきだ。

大久保小改築工事中の グラウンドの代替策は —答弁—大久保駐屯地や城南高校 に協力依頼をしている

答 現在、大久保小学校の体育施設を利用してしている団体は、地域体育振興会一ヶ月の6団体等であり、今回の工事でおおむね2年間、グラウンドが使用できない状態となる。市教委としては、スポーツを通じての青少年の健全育成や地域スポーツとしてのグラウンドゴルフなど生涯スポーツの普及振興を図る観点からも、小学校の周辺地域において一定の活動場所の確保が必要であると認識しており、そのため、大久保地域に近接している陸上自衛隊士久保駐屯地や城南高校のグラウンドの使用について、内訳をいただいているところでもあります。また、周辺の学校開放委員会にもご協力いただけるよう取り組んでいるところでもあります。今後も鋭意取り組む。

国保の資格証明書の発行をやめるべきでは